

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000076		
法人名	医療法人わたなべ内科クリニック		
事業所名	グループホーム桜の木	ユニット名	
所在地	福岡県柳川市矢加部230-4		
自己評価作成日	平成27年2月18日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年2月26日	評価確定日	平成27年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびりと」「その人らしく」「おだやかに」をモットーとし、柳川の自然豊かな環境の中で、入居者様がその有する能力に応じ、その人らしく暮らすために職員一同が、きめ細やかな良質のケアを行うよう努めています。家庭的な生活の中から安心感・信頼感が生まれ認知症が緩和されるようお手伝い致します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム桜の木”は、27年10月に5年目を迎える。開設時に植えた桜の木は大きく成長し、春には沢山の花を咲かせている。ホームの前を登校する子ども達に、入居者の方々が笑顔で手を振る“見守り隊”も、冬の季節以外は継続しており、地域の中で馴染みの光景になってきている。ホームで100歳を迎えた方もおられ、家族の方々とお祝いする事ができた。26年秋には子供会を招待し、花火を一緒に楽しむ事もできた。家族や地域の方との信頼関係も少しずつ深まり、家族の方が野菜を持ってきて下さったり、地域の方が花火や鉢植えの花などを届けて下さり、職員も嬉しく思っている。開設以来、職員全員が良きチームとなるために様々な意見交換を続けており、年々職員の結束は強くなっている。事務所の中に貼られている、「笑顔が一番」「みんなに感謝」と言う“書”も職員が書かれたもので、今後も入居者の笑顔を引き出すため、楽しい企画を増やしていく予定である。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事、催しにはできるだけ参加するよう心掛け、GHのイベントにも来て頂くよう地域の方へ声掛けを行っている。	「のんびりと」「その人らしく」「おだやかに」と言う理念を大切にしており、26年度はスタッフ間の連携が更に強くなっている。入居者個々の「その人らしく」の実践もできるようになり、「買物に行きたい」「自宅に帰りたい」等の要望を把握し、日々の生活で実現できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	北矢加部地区の子ども会を招いて食事や花火会を催し、交流を図っている。	子ども達との交流を積極的に行ってきた。ぽっぽ幼稚園の方から“トンボ”の壁画をプレゼントして頂いたり、双葉幼稚園の園児もお遊戯をして下さった。子ども達から手作りのマルを首に掛けて頂き、入居者も喜ばれた。垂見小学校の学童保育の子ども達と、“ふなやき”のお菓子作りも楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し「認知症について」の話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	継続してGHでの入居者やケアの状況、勉強会の内容、防災対応等について報告を行い提案や意見を頂いている。	運営推進会議で、「認知症について」の話をしている。外部評価結果も報告し、励ましのお言葉を頂いた。市の方や地域包括の方に介護保険の質問をされる家族の方もおられ、良き情報交換の場になっている。薬剤師や駐在所の方からの講話もあり、勉強の機会になっている。	今後も家族や地域住民の参加を増やし、ホームの事をもっと知って頂きたいと考えている。地域の子も達に気軽にホームに遊びに来て頂ける方法を検討しており、参加者の方々のアドバイスを頂く予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所への問い合わせや介護保険の書類手続き等にGHの現況について報告する機会を持っている。	市主催の制度改正の説明会に参加した。「介護予防ポイント事業」の説明を受け、家族にもチラシを見て頂いている。市役所にホーム便りを持参し、認知症型通所介護共用型の開設に関するアドバイスも頂いた。筑後地区の認知症の方が行方不明になった時の、事業者間ネットワークにも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHでの勉強会や研修を実施し、啓蒙する機会を設けている。	転倒防止の対策を家族と話し合い、ベッド下にマットを敷いている方もおられる。玄関のドアはボタンを押せば開くシステムで、入居者も玄関横の畑などに行かされている。感情が不安定になる時は職員が寄り添い、家族と過ごせる時間も作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内にて研修会を定期的実施し、意識付けを行っている。また、日々のケアで入居者の状態観察をおこない虐待になっていないか確認する。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を年に1回は必ず行いスタッフの啓発に努めている。	チーフ(ケアマネ)が中心となり、ホーム内で権利擁護の勉強会をしている。パンフレットを準備し、入居時に制度の説明をしている。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。家族から相談を受けた時は、再度、制度の説明をさせて頂く予定にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別にご家族との面接時間を設定し、説明を行っている。問い合わせの内容によっては行政機関への対応も実施する。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時や2ヶ月に1回「状況報告書」の作成、運営推進会議等にて意見表明の機会を設けている。	面会時に「心配な事はないですか」と家族に尋ねている。状況報告書(1回/2月)を担当職員が作成し、「桜の木だより」も毎月家族に郵送している。桜の花見の時期に親睦会を行い、家族同士の交流の機会になっている。退居後も“桜の木”のプレート等を持参して下さる家族もおられる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議やユニット毎での会議を継続して、実施中である。また、業務時間内でのカンファを設けている。	職員から「外部研修に参加したい」と言う要望が聞かれ、研修案内を送り時や連絡ノートでお知らせしている。業務時間の情報交換も多く、7つの委員会活動も続けており、職員の意見やアイデアを日々の業務に活かしている。ホーム長やチーフ、リーダー等が職員の相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの能力を把握し委員会に所属して頂き能力を発揮する機会の確保を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	65歳以上の方でも培ってきた経験を活かして頂くよう環境の整理を継続。面接時にGHの役割や業務内容について説明を行っている。	採用面接は、事務長やホーム長、チーフ等が行い、お人柄(優しさ、穏やかさ等)を大切に採用している。開設当初からの職員も勤務しており、職員の得意な分野(料理、畑仕事、書道、漫画等)を発揮して頂いている。優しい職員が多く、職員の長所を引き出すように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	GH内の研修や施設外での研修等で接遇についての意識付けを実施。日々の業務の中で介護を受ける側の気持ちについて思考するよう啓発を行う。	毎月の会議で、院長や事務長の言葉である「入居者への言葉かけには敬いの気持ちを持って…」などを職員に伝えている。ホーム長からは「相手の気持ちを先に考える事や、ご本人を尊重したケアを行う事」を伝えており、チーフも、転倒予防のための日々の気配りを行う事を伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH外での研修報告やGH内の勉強会を継続中。資格取得が出来るよう勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での事業者間での交流会や勉強会に定期的に参加している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時に心配な点や理解できない点に対して時間をかけ対応を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	解りにくい事や要望などについては入居前のインテークや来所時に情報提供を行い、対応中家族が納得するまで話し合いを持っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人もしくは御家族との面会時間を必ず設けて情報収集を行い、ニーズの抽出、把握を続行している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶の時間は、入居者の方々と一緒に過ごし食器拭きや洗濯たたみ等の生活活動を行って頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に面会を依頼し、一緒に過ごす時間を作って頂いている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を家族から情報を取り、外出支援を行っている。	生活歴を把握し、馴染みの場所等をセンター方式に記載している。自宅の庭のミソを探りに行かれたり、入居前に行かれていた「夢タウン」にお連れし、洋服を購入されている。年賀状を書く事が困難な方は職員が代筆し、親戚の方から絵手紙が届く方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話をされる時、聞こえ難い入居者にはスタッフが間に入り、支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた入居者の場合は、面会に行き話す機会を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望や意向についての把握を行うツールとしてセンター方式を活用し、適宜の検討を行っている。	日々の生活の中で要望を伺っており、言葉が増えた方もおられる。「家に帰りたい」「買物に行きたい」などの要望も聞かれ、家族も協力して下さり、自宅や買物と一緒に下さっている。意思伝達が難しい方は表情や行動から思いを察し、センター方式に記録している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にアセスメントを行い生活歴の把握を実施。ケアに関する詳細な事に関しては家族へ確認し、実施している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し得た情報を元に利用者の1日の状態やスタッフが気付いた変化を介護記録に記入する事で利用者の状態把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意向や要望を汲み取る事で希望に沿ったプランになるよう努めている。	苗植えやお宮清掃などの地域行事に参加したり、子ども達の見守り隊に参加している。茶碗拭きや洗たく物たたみと共に、リハビリや体操、買い物やドライブ等も計画に盛り込まれている。体調の変化が見られた時は、随時介護計画を変更しており、職員間で計画内容の検討を続けている。	介護計画作成時に、家族との話し合いを増やす予定にしている。入居者の希望に応じて旅行を企画したり、思い出の地や馴染みのスーパー等にお連れできればと考えており、家族と一緒に検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの状態の変化や気づきを記録に残している。また、職員が業務に入る前に目を通して情報を共有しケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の変化するニーズに対応してサービスを限定せずに提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントツールとしてセンター方式を使用し家族やボランティアからの情報提供にて暮らしのサポートを実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHの入居の際に体調の変化に対応がスムーズに行えるようわたなべ内科クリニックで統一を図っている。	協力医療機関からの往診が週2回ある。ホームに看護師が常勤し、病院の看護師との連携もあり、ケアのPTや栄養士からもアドバイスを頂いている。眼科等は家族が通院介助するが、家族の都合に応じて職員が同行する時もある。職員は症状の変化を観察し、早期発見に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯にクリニックの看護師が勤務しており、入居者の健康管理や相談に対応できる体制を敷いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やCMが中心となって医療機関への情報提供や収集を実施し、入退院の円滑な支援に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について御家族の意向を尋ねるようにしている。また、主治医や看護師と連携して、入居者の要望に沿うよう支援を行っている。	ホーム長とチーフが主に意向確認している。「ホームで長く」と希望される方が多く、重度化した場合は主治医と連携し、入居者と家族の意思を尊重したケアを行っている。できる限りホームで暮らして頂き、最後は病院に転院する方もおられ、急変時などは、院長や看護師に24時間相談でき、職員の安心になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの常設、緊急時の連絡法を掲示し看護師や主治医と連携し異常の早期発見、体調変化の把握に努めている。主治医の指示の元対応法を介護者へわかり易く情報提供や指示を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や風水害時の対策マニュアルを作成関係機関の連絡先を掲示し、速やかな行動が出来るように連携を図る。職員への周知を図る。	消防団との協力体制もあり、スプリンクラーを設置している。防災委員を中心に、消防署職員と昼夜想定避難訓練を行い、避難完了までの所要時間を測定している。消防署員が入居者役になって下さり、避難誘導講習も行われた。台風の接近時は、停電に備え、湯船にお湯を貯めている。	避難場所は母体病院であり、非常食の備蓄の相談を行うと共に、筑後地区の施設間で協力体制の検討を行いたいと考えている。居室の家具の転倒防止対策を行い、近隣住民の訓練の参加を依頼予定である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪問する時は入居者の許可を取って対応している。また、入居者の方の話に否定的な声掛けをせず、最後まで傾聴する。	ホーム長は、常に“この日が最後”と言う気持ちを持って楽しく過ごせるように、職員に伝えている。優しく穏やかな職員が多く、入居者の情報で触れてはいけない事を理解し、入居者が不安や混乱に陥るような言葉かけをしないように努めている。	ケアが重なった時など、職員が焦ってしまい、語調が強くなる時がある。職員間で注意し合う関係もできているが、今後も全職員が言葉遣いに注意し、ホーム全体の目標として言動への配慮を続けていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時に入りたいかどうかの確認を行い、何時に入浴したいかを尋ね自分で決定できる様に促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的な言動は行わずに入眠時間や夜間の時間の過ごし方等は、入居者の要望を尊重する。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きた際にホットタオルで顔を拭いてもらったり、男性の入居者の髭剃り等をこまめに行う。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな食物の希望を伺い誕生日会などに提供を行っている。	食事委員会が献立を作成し、栄養士がチェックしている。ホームの畑で野菜を収穫し、入居者も皮むきや味見、盛り付け、下膳、食器拭き等をして下さっている。希望に応じて“おにぎり”にしたり、花見弁当やバイキングを楽しまれている。今後も安全に配慮し、刺身等も楽しんで頂く予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ季節を取り入れたメニュー作りを心掛け楽しんで食事を摂取するよう対応を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の歯の状態に応じて口腔ケアを実施している。歯科医と連携し口腔内や歯の異常等の早期発見に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個人に合わせたトイレ誘導を行っている。毎月のパット使用枚数をチェックし検討を実施している。	下着を着用する方もおられ、トイレでの排泄を大切にしている。個別の排泄リズムに応じた誘導を行い、失禁の減少に努めており、オムツ代金の負担軽減とスキントラブルの防止になっている。パットの大きさも個別に選定し、自然排便を増やすために、牛乳や手作り寒天ゼリーを食べて頂いている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がある入居者の方には10時、15時の水分補給時に牛乳を提供したり、食事に寒天ゼリーを付けて腸の運動を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺い午前、午後に分けて行っている。時間帯なども入居者に確認し、入浴されるかの有無を尋ねている。	希望があれば毎日の入浴も可能である。希望に応じて同性介助を行い、主治医の指示でシャワー浴をする方もおられる。入浴を拒まれる時は声かけを工夫し、入浴時は職員との会話を楽しまれたり、軍歌なども唄われている。家族から頂いたミカンを湯船に浮かべ、香りを楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々人の感覚や季節に適応した室温の調節を行っている。また、不眠時にはホットミルクやココア等を提供し安眠の確保を図っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のカルテに薬状を綴り、処方薬の把握を職員が共有できるようにしている。また、内服薬に変更や追加があれば、全職員に伝わるよう送りの徹底を図っている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や生活歴等を参考にして外出支援や日常のレクリエーション活動の支援につなげている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者より果物(ミカン)を買いに行きたいとの依頼があり、家族へ相談を行い、大川ユメタウンへの買い物支援へとつなげることができた。	ホーム周辺を散歩したり、畑に行かれている。入居者の方が登校する子ども達の見守り隊もされている。菖蒲や向日葵、コスモス等の花見や、柳川文人の足湯、道の駅(みやま、船小屋等)に行かれたり、日吉神社の菊見も楽しまれた。柳川の“かんぼの宿”の1階に飾っている“さげもん”見学をしたり、柳川の川下りも楽しまれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の保管や管理はGHで行っているが、買い物時には入居者の方と一緒に遣うよう支援を実施している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡や手紙があれば入居者の方に閲覧して頂いている。また、手紙や毎年の年賀状を書き送ったりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を感じる飾りを展示し廊下には、過ごした思い出の写真を張り出している	リビングにソファを増やし、入居者の方が団欒されている。台所は対面式で、入居者との会話を楽しまれたり、畳で昼寝をされる方もおられる。廊下には写真や年表などを貼り、入居者の誕生日や年齢を掲示している。今後も、ユニット毎の個性を發揮し、入居者の能力に応じた作品作り(折り紙・貼り絵など)を楽しまれていく予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを置き、畳コーナーには座椅子を設置し、入居者の方が自分の好きな場所で過ごせる様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	猫好きの入居者の居室に猫のカレンダーを飾ったり、親類から届いた絵はがきを飾っている。	木製の畳ベッドを備え付けており、心身状況に応じて電動ベッドも使用している。家族の写真や塗り絵を飾り、タンスやテーブル、座椅子、コタツなどを置かれている。仏壇や経典を持ち込まれ、お参りしている方もおられ、地域の方から誕生日のお祝いで頂く、鉢植えの植物も飾られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々がリラックスして、安心 安全に過ごせるようにソファを増やした。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				